

「窓から穴道湖を臨み」「広がる青空」
緑に恵まれた玉湯の丘で期待に応える病院を目指します。

玉造厚生年金病院広報誌

たまつくり

ノウ

No.22

2011年 新春号

玉造厚生年金病院 人工関節センター開設5周年記念市民公開講座

「歩けるって幸せ！」&ミニコンサート
タカハシ 林田 子安 さん 等
玉造人工関節センタースタッフ

「演題」
「最新医療で人生を」
玉造厚生年金病院 名誉院長 上尾 豊二



理 念

1. 私たちは、医療人としての責任を自覚し、研修をおこたらず安全で水準の高い医療の提供に努めます。
2. 私たちは、患者さまが自立した生活を送れるよう身体機能の回復、維持、日常生活動作の改善を支援します。
3. 私たちは、「いつも笑顔で真心こめて」をモットーに、患者様の立場に立った心温まる医療を行います。
4. 私たちは、地域の人々のために、保健・福祉活動の充実に努めます。



Contents

- 玉造人工関節センター開設5周年にあたって
—センターのしくみと現状— …… 2・3
- 当院は日本医療機能評価機構認定病院です version6.0認定 … 4
- 医療トピックス—骨粗鬆症に伴いやすい胸・腰椎圧迫骨折— … 5
- 形成外科の先生をご紹介します・リハ機器紹介・新人紹介 … 6
- 地域の先生のご紹介 …… 7

人工関節OP件数 7,003件 (1月31日現在)

玉造人工関節センター 開設5周年にあたって

－ センターのしくみと現状 －



人工関節センター長
小谷 博 信

玉造人工関節センターを開設してから5周年を迎えました。開設以来の当センターの歩みと現在のセンターの仕組みを紹介します。

当センターは年々増加している人工関節手術に対応するために、2005年10月に開設し、その開設記念として市民講演会を、米国バーナセク先生をお招きして松江テルサで行い、約500人の市民の来場を得て、マスコミにも報道されました。

人工関節センターの目的は、外来から術前の身体状態の評価、合併症の対策、手術、リハビリテーション、術後経過の診療と一貫した体制を構築することにより、より充実した治療を提供することにあります。

当院では、センター病棟（手術病棟）、回復期リハ病棟を中心に、外来チーム、手術チーム、フォローアップチーム、教育チームを作り、それぞれが、機能的に連携しあって一貫した体制をとっています。

具体的には、専門外来で手術が必要と判断されると、外来ナースのみならず、手術病棟ナースも外来で患者さんの身体状態を把握し、合併症のチェックを行います。そして手術病棟に入院して手術を行います。手術病棟のナースは外来で患者さんの状態が把握できるので、入院してきたときの対応がしやすくなります。手術病棟で急性期が過ぎるとリハ病棟にて十分なリハビリを行ったのちに退院します。退院後には定期的な受診があります。そのときはリハ病棟のナースが外来で患者さんの生活指導や相談に応じます。このナースは患者さんの顔見知りなので、種々の相談など

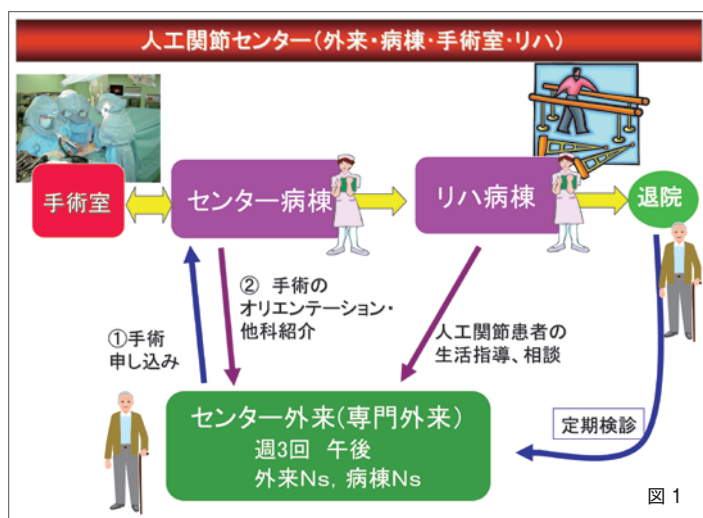


図 1

がしやすくなり、好評です（図1）。

2006年3月には当院通算5000件（1973年に第1例を行ってから）の人工関節を達成して、その記念式典を2006年4月に当院ホールで行いました（図2）。また、2006年6月には、5000件記念の植樹としてモクレン（花言葉:持続性）を病院北側の庭に植えました。このように患者さんの数が当初から分かるもの、患者さんのデータを第1例からすべて病歴室のパソコンで管理しており、即座に取り出せるようにし



図2 5000例記念式典（4名の患者さんが5000例目です）



図3 病歴室でのデータ管理

ているため、診療に非常に有効に活用しております。現在（2011年1月末）で累計7003件になっております（図3）。

2006年6月から人工関節ラーニングとして（1泊2日）、人工関節手術の技術の習得を希望されるドクターを全国から募って、2ヶ月に1回のペースで開始しました（1回に2～4名）。その後、好評につき、1ヶ月に1回行うようになり、現在までに130名以上のドクターおよび30名以上のナースや理学療法士などが参加されております。人工関節という先端の医療技術のレベルアップに貢献できればよいかと考えております（図4）。

患者さんとその家族の会として「人工関節友の会」



図4 ラーニング（パソコンで討論中）



図5 人工関節友の会（2007.4）

が2007年4月に発足し、講演会と座談会・アトラクションを行う「友の会の集い」を年に一度開催しています。この会は患者さんがお互いに励ましあったり、気楽にドクターと話ができる場として、患者さんの生活の質の向上を目的としており、今年で4回目となり、参加希望者も多く今年は160名の参加があり、同窓会的なごやかな雰囲気で行われました（図5）。

また、自分の人工関節のレントゲン写真をパスポートサイズまたはクレジットカードサイズにした「人工関節写真カード」を2007年1月から提供しています（有料）。これは空港での検査などに有効に活用されて好評を博しています（図6）。



図6 人工関節写真カード

2010年10月にはセンター5周年記念の市民講座として、名誉院長の上尾豊二先生の講演、歌手のダ・カーポの3名（その一人が股関節の手術を受けている）を交えた体験談の座談会およびミニコンサートを約450名の参加を得て、松江テルサで行い、その内容はマールテレビで放送されました（図7）。

人工膝関節と股関節患者さんの日常生活を中心にQ&Aや自主訓練プログラムを写真と一緒に分かりやすく解説した小冊子を、リハビリスタッフを中心に作成し販売しており、好評を得ています（図8）。

以上、当人工関節センターで行ってきたことの概要を紹介しました。今後とも最新の医療をより充実して的確に、より安全に提供できるよう努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



図7 5周年記念市民講座：当院スタッフとダ・カーポの座談会



図8

当院は 日本医療機能評価機構 認定病院です

Ver6.0 認定



病院機能評価受審委員会委員長
整形外科部長
池田 登

“日本医療機能評価機構認定”初回更新を終えて

病院紹介のホームページやパンフレットを見ると、多くの病院のトップページに“日本医療機能評価機構認定”といった項目が見られます。患者さまのなかには、これはいったいどんなものなのかと疑問を持っている方もおられるかと思います。そこで、今回はその説明をさせていただきます。

この日本医療機能評価機構は、平成7年、“医療機関の第三者評価を行い、医療機関が質の高い医療サービスを提供していくための支援を行う”ことを目的として設立された財団法人です。現在、厚生労働省の「医療施設動態調査（平成22年3月末概数）」による全病院数8708病院のうち2543病院が認定されています。われわれは一般に「病院機能評価」と呼んでいます。

当院では平成17年12月19日に初回認定を頂きました。有効期間は5年で、昨年9月6、7、8日に更新のための審査を受け、このたび無事合格し、1月25日付で認定証を頂いた次第です。

この審査は日本医療機能評価機構から医師、看護師、医療事務員ら10名程度（多くが現役引退されたどこかの院長、看護部長、事務局長ですが、現役のかたもおられます）のサーベイヤーと呼ばれる審査員が派遣されて、その病院が質の高い医療を効率的に行っているかどうかを客観的な立場で評価します。そのチェック項目は約350項目にわたり、医療や看護部門はもちろんですが、病院経営に至るまでのその病院のあらゆるシステムが評価されます。

これによって、病院にどんな変化があるのかですが、まず患者さまになじみのあることは病院敷地内全面禁煙です。禁煙は喫煙者だけでなく、副流煙から周囲の人への弊害もあり、社会全体の流れです。病院で禁煙が他の公的機関に先駆けて始まることは、社会における病院の役割から当たり前のことなのですが、全国で一斉に敷地内禁煙が広まったのは、実はこの機能評価のおかげです。入院患者だけでなく、病院職員のなかにも、病院敷地内禁煙によって、禁煙が達成できた方も多々おられると思います。



検査や手術など体に侵襲のある医療行為を受ける場合、医師の説明が長くて丁寧で、説明されたのちサインが必要な書類がたくさん渡されます。また診断や治療方針についてほかの医療機関に意見を聞くセコンドオピニオンが推奨されています。近年こういった患者さまへの「説明と同意」が重要視されています。この「説明と同意」の完備はこの機能評価における最重要項目のひとつです。

現在の医療は、従来のひとりの医師の裁量権が幅をきかせていた時代に比べ、各医学会でエビデンスに基づいた診療ガイドラインが制定されたり、主だった疾患のクリニカルパスといった入院から退院までの一定の治療方針がマニュアル化されたりして、治療方針の画一化が図られています。こういったガイドラインやクリニカルパスの整備も評価の対象です。

また病院内に掲示が増えました。わかりやすい環境が求められます。

病院職員の職務上の安全や休暇に関する取り決めも明確にされ、3Kとも言われる病院の職場環境の改善が要求され、働きやすい職場が求められています。

問題もないわけではありません。この日本医療機能評価機構の期待する病院像には人と財力が必要です。この認定のためには多額の出費がかさみます。医師・看護師不足が叫ばれている今、医師や看護師の確保にも力を注がなければなりません。

以上簡単に病院機能評価について説明しました。これを準備したり、実践したりすることは大変ですが、最終的には、病院の機能が向上することは患者さんにとってメリットがあるだけでなく、病院職員にとってもメリットがあります。しかし患者さんを含めて病院を利用しているすべての皆さまのご協力がなければ病院機能の向上は望めません。

今後も当院の理念にある“いつも笑顔で真心をこめて”患者さまの立場に立った心温まる医療を実践してゆきたいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

骨粗鬆症に伴いやすい 胸・腰椎圧迫骨折



副院長
千束 福司

骨粗鬆症は高齢者に合併することが多い病気です。60代後半より増加して80代で女性の約5割が、また男性では2～3割が骨粗鬆症であるといわれています。ところで島根県の人口は平成22年10月時点で約71万5千人であり、65歳以上の高齢者は20万8千人（29.1%）となります。高齢者の頻度は全国平均（22.7%）に比べ最も高く昭和50年以來連続して35年間日本一を続けています。そのため島根県では骨粗鬆症の患者さんが非常に多いと想像が付きまします。

一般に脊椎の骨折は外傷に伴い発症し、強い外力が原因となります。しかしながら脊椎骨粗鬆症を伴う脊椎の骨折は転倒や尻もちをつくことは勿論のことですが、重量物（石油タンク）を持ったり、時には咳きをするといった軽微の外力で発症することがあります（図1）。時には誘因なく起床時に身体を起こした時に骨折を来すこともあるのです。骨折により神経が圧迫を受けると麻痺や坐骨神経痛をきたし、歩行が障害されます。そのために生活能力が極端に低下し生命予後にも影響を及ぼすのです。

そこで人生をより健康に過ごすため骨粗鬆症の予防と治療が必要となるのです。その決め手は骨密度を維持・増加させることであります。骨密度を増強するためには運動として10Kgのリュックを背負ってジャンプを毎日続けなければならないといわれています。しかしこのような運動は高齢者には困難であり、目的を少しでも達成するため散歩などの軽い運動が必要です。また太陽の下で日光にあたり散歩をすることでビタミンDが活性化して、その結果骨が強くなるのです。しかし高齢者の中には膝の関節や股の関節の痛み、それに坐骨神経痛のために散歩などの軽い運動さえ難しい人もおられます。そのような方は水の浮力を利用して水泳や水中歩行を行なうことにより、下肢や体幹への負荷を少なくして骨のみならず筋肉の肥大や筋力の増強が期待できます（図2）。

そのほかに食事療法も必要で、先ずカルシウムの豊富な食べ物や骨の形成を助けるビタミンKやカルシウムの吸収を助けるビタミンDなどをバランスよく食べることが肝要です（図3）。

運悪く骨折を起こした時には早期診断・早期治療が必要です。診断の決め手となる特徴的疼痛がみられ、寝返りや起きる動作時に強い疼痛を伴うのです。以上の疼痛が数日続けば骨折が疑われますので専門の病院（整形外科）の受診を勧めます。

治療についてはマッサージや整体を避けて専門医に任せましょう。

骨粗鬆症の有無や程度を診断するため骨密度の測定が必要です。骨強度はあなたの健康のバロメーターです。

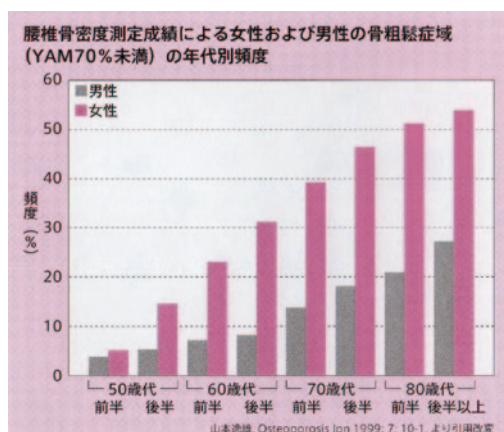


図1 骨粗鬆症の頻度



図2 食事療法



図3 運動療法

形成外科の先生をご紹介します



川崎医科大学形成外科・美容外科教授

稲川 喜一（医師）

診療日 毎月1回 第3木曜日

◇日本形成外科専門医 ◇日本熱傷学会専門医 ◇日本褥瘡学会認定医 ◇日本がん治療認定医

この度、形成外科の非常勤医として8月に着任いたしました。岡山県倉敷市の川崎医科大学形成外科に所属しています。月1回の診療ではありますが、どうかよろしくお願いいたします。形成外科とは先天性あるいは後天性の身体表面にみられる醜状変形を、主に手術によって修復・再建し、患者さんが機能的、形態的さらには精神的にも満足な社会生活を送れるよう

手助けすることを目的とした外科学の新しい一分野です。私の専門分野は、口唇裂・口蓋裂や小耳症といった先天性外表異常の治療と、マイクロサージャリーを用いた組織移植術であります。当院におきましては、顔面や手足の外傷や皮膚腫瘍、難治性皮膚潰瘍といった疾患に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

リハ機器紹介

Win FDM システム：足圧分布計測システム

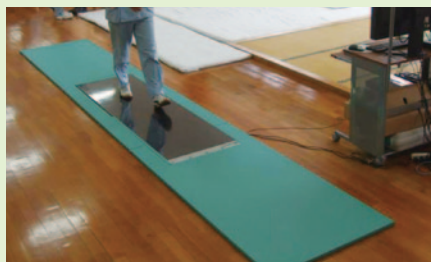
当院では、この機器が導入されるまで、人工関節術前後での歩容の変化や、装具装着による足底にかかる荷重の影響などの評価としては、ビデオやセラピストの目での評価しかできませんでした。しかし、近年客観的なデータの重要性は高まってきており、今回この足圧分布計測システムを導入したことで、具体的には、歩行スピードや下肢への荷重のかかり方、歩幅、歩行バランス状態などが、グラフ表記されレポートが作成されるようになりました。

よって、この歩行データを患者様にも見て頂き、



リハビリテーション室
理学療法士
若槻 圭

手術前後の「歩き方」を説明させて頂くことで、患者様にもより具体的に改善点を説明できるようになり、モチベーションを高めることができると考えます。



◀足圧分布測定場面

こんにちは

新人紹介

はじめまして



きよ はら けい すけ
清原 圭介
(ST)

昨年10月からの勤務です。30歳過ぎまで飲食店を営んでおりましたが、心機一転、地元でSTとして働き始めました。未熟者ですが、これまでに培ったサービス精神を発揮して一生懸命励みます。よろしくお願いいたします。



当院と連携していただいている

地域の先生のご紹介

中村医院

院長 中村慎一



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休
午後 2:00~6:00	○	○	○	○	○	※	休

※午後2:00~5:00

■休診日／日曜・祝祭日

■住所／〒699-3211 島根県浜田市三隅町三隅1356

■TEL／0855-32-0021 FAX／0855-32-3221

■診療科／整形外科・外科・内科

平成14年にそれまで開業していた父の診療所を継承する形で、那賀郡（現浜田市）三隅町に医院を開設いたしました。いわゆる「整形外科」とプライマリケアを地域の方々に提供しておりますが、まだまだ発展途上であり、研鑽中の身であります。三隅町は浜田市と益田市にはさまれた町で、島根県の西端にあり、松江市からは120kmほど離れたところにあります。しかし、住民の方々の玉造厚生年金病院に対する信頼は非常に厚く、難治症例や手術を希望される患者さんは多く紹介を希望されます。

私自身も、前院長上尾豊二先生をはじめとして、三河義弘院長、千束福司先生、小谷博信先生から直接ご指導いただいた経緯から、気軽に紹介をしやすいこと、いつも快く診ていただけること、そして何よりも診察、検査、手術、リハビリにいたるまで、一貫して高いレベルで診療していただけることから、安心して、そして自信をもって患者さんにお薦めしております。また、紹介患者さんの診断や治療内容をこと細かくお教えいただくことによって、私自身のスキルアップにもつながっております。

これからも地域の患者さんのため、そして私自身のためにも、連携を密にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



長見クリニック

院長 長見晴彦



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	休
午後 3:00~6:30	○	○	○	休	○	※	休

※14:00~17:00

■休診日／木曜日午後 日曜・祝祭日

■住所／〒699-1311 島根県雲南市木次町里方633-1

■TEL／0854-42-5055 FAX／0854-42-5056

■診療科／外科・内科・消化器科・整形外科
肛門科・心臓血管外科・消化器外科

島根医科大学第一外科辞職後、平成9年7月28日、松江市出身の私にとって縁もゆかりもない島根県木次町で開業し14年の月日が経過しました。私の専門分野は消化器外科、血管外科であり整形外科領域は大学のアルバイト先で診療するのみでしたので開業当初の標榜科は外科、内科のみでした。しかし田舎では患者様から外科は整形外科と勘違いされ開業当初から木次町近隣をはじめ宍道、仁多、横田、赤来、広島県境から脊椎、膝、肩、関節疾患、骨折などの患者様が予想以上に多数来院され、当初は疾患の診断治療に戸惑い相当自分なりに勉強した記憶があります。私自身の基本方針はいつまでもNSAIDsで患者様を抱えることなく早期診断し専門医へ紹介する事であり、これまで玉造厚生年金病院の先生方には大変お世話になり感謝しています。患者様も「玉造で手術して本当に良かった」と常に言ってもらえ有難いことです。また私が常日頃注意している疾患は腰痛（内臓痛、血管痛、炎症が原因）、肩疾患（腱板断裂）、膝疾患（靭帯損傷、半月板損傷）、スポーツ障害であります。特に難治性腰痛の患者様は慎重を期しています。開業14年間に多数の腰痛の患者様が来院されましたが、うち消化管癌15例、肝胆膵癌12例、腎盂癌5例、腹部大動脈瘤8例、解離性大動脈瘤5例、急性化膿性椎間板炎6例、腸腰筋膿瘍3例を診断、経験した事を鑑みれば「たかが腰痛、されど腰痛」と常に肝に銘じております。当院では整形外科手術が出来ませんので、これからも私自身整形外科医（俗語）として玉造厚生年金病院と密な病診連携を取り患者様のお役に立てればと思っております。



地域連携室 TEL 0852-62-1591 FAX 0852-62-1579



クリスマスコンサートを開催しました



12月恒例のクリスマスコンサートを開催しました。回を重ねること14回。宣伝の効果か、入院患者様が多かったためか、180人を越える皆様にお越し頂きました。ありがとうございました。今回は、新メンバーも加入し、皆さんに喜んで頂けるよう新しい試みを行いました。まずは、『クリスマスソングメドレー』これには、合奏隊にフレッシュなメンバーが加入し、平均年齢をグッと下げてくださいました。これからが楽しみです。

『銭太鼓の花笠音頭』と『キンニャモニャ踊り』では、新しい事を覚えるのは大変で、練習では体が思うように動かずもどかしい思いもしましたが、衣装を着るとその気になって、かっこよく踊れたのではないかと自己満足しています。



観客の皆さんとともに歌う『みんなで歌いましょう』の選曲は、いつもですと、童謡をメドレーにしていましたが、今回はどんな年齢層の方もご存知の歌謡曲“上を向いて歩こう”“いい日旅立ち”“川の流れるように”の3曲を選びました。選曲が功を奏したのか、200人の大合唱に、一体感と感動を覚えました。個人的にはコンサートの中で最も楽しかった瞬間です。

もちろん、クリスマス恒例のサンタクロースも登場しました。今回は、大人の、特に女性のためにイケメン（イケメンとは…いけてるメンズ=カッコいい男性のことです?!）のトナカイを用意いたしました。楽しんでいただけましたでしょうか。

プロの歌と演奏も、コンサートらしく花を添えて下さいます。歌は、私達の先生である野津美和子さん、演奏は代香織さんです。

最後に歌った『ありがとう』ご存知「ゲゲゲの女房」の主題歌です。なかなかテンポについてゆけず、苦労しました。ですが、気持ちを込めて歌いました。皆さんに届いているとうれしいです。

次回は七夕コンサート。今から、アイディアを考えなくては…お楽しみに!!

Y.I



玉湯幼稚園からかわいい慰問がありました



昨年11月5日晴れわたった秋空の日、玉湯幼稚園児の年長さんたち21名が園長先生と担任の先生、実習の先生に連れられ幼稚園から病院までの約2キロの道を歩いて当院の患者慰問に来てくれました。患者食堂を会場にし、職員と「どんぐりころころ」「まつぼっくり」を歌い、その後は園児だけの歌も披露してくれました。元気いっぱいの歌声に患者さまも目を細めて聞いていらっしゃいました。そのあとは、病室にいる患者さまに自分たちが書いた絵入りの写真立てを持って訪問しました。園児たちは、患者さまひとり一人に「早く元気になってください」と言葉を添えてプレゼントを渡し、患者さまも喜ばれ握手をしていました。

最後に、園児たちが折った千羽鶴をロビーに飾り全員で記念写真を撮りました。元気なかわいい訪問者に和んだひとときでした。

M.I



あ と が き

年明け早々大雪にみまわれ、混乱の正月を迎えることとなりました。「さんばち豪雪」以来の大雪ということで、その昭和38年も今年と同じ「卯年」であり、豪雪の年なののでしょうか。近所では子供たちが雪で「かまくら」を作る姿も見受けられ、幼少の頃を懐かしく思い出しました。

また、卯年は伸びた芽が成長して花が咲く年という意味があるそうです。みなさんの努力や希望の花が大きく開花する年となるといいですね。

K.T

患者さまの権利

あなたは、人種・国籍・性別・年齢・宗教、その他の個人的な背景に拘らず、差別なしに適切な医療を受ける権利を持ちます。

あなたは、担当の医師や病院を自由に選択できる権利を持ち、またどの治療段階においても、他の医師の意見を求める権利を持ちます。

あなたは、すべての医療上の記録を知る権利を持ちます。また、医師から症状について十分な説明を受ける権利を持ち、自分自身に関わる治療方針を自由に決定できる権利を持ちます。

あなたのプライバシーと個人情報完全に保護いたします。

玉造厚生年金病院

〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2
TEL 0852 (62) 1560

【表紙写真】人工関節センター開設5周年記念市民公演会
左より 整形外科部長 池田登、名誉院長 上尾豊二
院長 三河義弘、人工関節センター長 小谷博信

ホームページから たまづくりNOW が
ダウンロードできます。 <http://tamahosp.jp>